

IR

第58期第2四半期
営業のご報告

2021年4月1日～9月30日





株式会社 あじか
代表取締役 社長執行役員 **足利 直純**

株主のみなさまへ

増収増益の決算をご報告申しあげます

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。当社グループの第58期 第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)の営業の概況および決算などについてご報告申しあげます。

ご高承のとおり、当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の停滞が継続した結果、前連結会計年度において急速に悪化した個人消費や企業収益は依然として回復しておらず、厳しい状況で推移いたしました。他方、国外におきましては、新型コロナウイルスのワクチン接種は進展しているものの、さらなる感染再拡大が懸念されていることに加え、米国の金利政策により金融資本市場が不安定な動きとなるなど先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、消費者の購買行動が大きく変化していることに加え、長引く景気後退によって個人消費は足踏み状態となっており、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは『需要創造型食品メーカーへの挑戦』および『利益構造改革と経営品質の向上』をテーマとした第12次中期経営計画の初年度をスタートさせ、『利益構造改善への取り組み』、『業務用食品事業の売上拡大』、『ヘルスフード事業・海外事業の拡大および新規事業構想の立案』、『経営品質の向上』を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、業務用食品等ではスーパーマーケットを中心とした中食業態や、回転ずしチェーンを中心とした外食業態への可能な限りの提案・販売促進活動を展開してまいりました。また、前年同四半期に大幅に減少していた外食・仕出し・給食業態の需要も回復基調にあり、国内の売上高は前年同四半期実績を上回る結果となりました。輸出・海外子会社の売上高につきましても、ロックダウンの影響が軽減されたことに伴い、大きく回復いたしました。これらの結果、外部顧客への売上高は、19,490百万円(前年同四半期比9.4%増加)となりました。

生産面におきましては、省エネ活動や、生産技術力の向上による歩留まり率の改善などの原価低減活動を行ったものの、当社の主要原材料である鶏卵の価格が鳥インフルエンザの発生によって大きく上昇した結果、製造原価率は前年同四半期に比べ大幅に上昇いたしました。

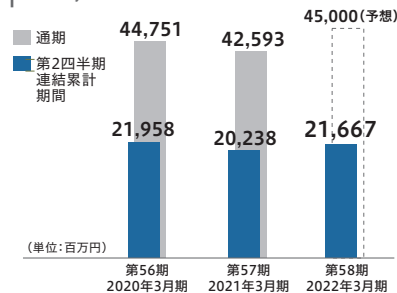
ヘルスフード事業におきましては、通信販売は、東京オリンピック・パラリンピック期間中のBS・CS放送視聴率の低下によるCM効果の低下などにより、新規顧客の獲得が減少したことや、収益認識に関する会計基準の適用もあり、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。一方、ドラッグストアなどでの市販品につきましては、新規開拓やインスタプロモーションの強化を行った結果、機能性表示食品のごぼう茶の売れ行きが好調に推移いたしました。しかしながら健康茶カテゴリにおいて競合品が増加したことや、ごぼう茶ミルクやごぼうスティックなど健康茶以外のカテゴリにおいて新製品導入効果が薄れたこともあり、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、21,667百万円(前年同四半期比7.1%増加)となりました。利益面につきましては、当社主要原材料である鶏卵の価格が鳥インフルエンザの影響から大幅に上昇いたしました。売上高の増加要因に加え、徹底的な諸経費抑制に努めた結果、営業利益は31百万円(前年同四半期は営業損失20百万円)となりました。経常利益は、持分法による投資利益や為替差益などにより127百万円(前年同四半期は経常損失5百万円)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は65百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失25百万円)となりました。

■ 通期業績予想

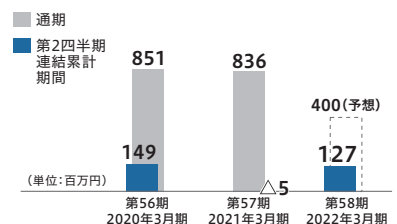
なお、通期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による需要動向に加え、冬場の原材料価格、為替・株価、原油価格など、先行き不透明で流動的な要素も多くありますが、当第2四半期連結累計期間までの状況を勘案し、売上高45,000百万円、営業利益300百万円、経常利益400百万円、親会社株主に帰属する当期純利益300百万円を見込んでおります。

売上高
21,667百万円



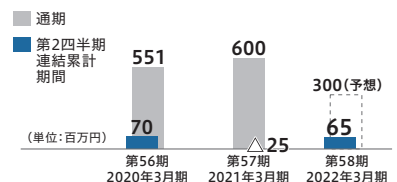
経常利益(△損失)

127百万円



親会社株主に帰属する
当期(四半期)純利益(△純損失)

65百万円



注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■第2四半期 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結	当第2四半期
	会計年度	連結会計期間
	2021年3月31日現在	2021年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	10,755	11,484
現金及び預金	1,843	1,781
受取手形及び売掛金	5,031	5,326
商品及び製品	2,296	2,369
仕掛品	34	52
原材料及び貯蔵品	1,106	1,471
その他	457	496
貸倒引当金	△ 15	△ 13
固定資産	12,990	12,987
有形固定資産	10,643	10,503
建物及び構築物(純額)	3,921	3,866
機械装置及び運搬具(純額)	2,194	2,031
土地	3,804	3,806
リース資産(純額)	221	316
その他(純額)	502	482
無形固定資産	471	625
ソフトウェア	358	524
リース資産	60	57
のれん	49	41
その他	2	3
投資その他の資産	1,875	1,857
投資有価証券	687	654
長期前払費用	0	1
繰延税金資産	82	96
退職給付に係る資産	282	310
その他	899	870
貸倒引当金	△ 77	△ 76
資産合計	23,745	24,472

※1 流動資産は、前連結会計年度末に比べ729百万円増加し、11,484百万円となりました。主な増加要因は、原材料および貯蔵品の増加365百万円、受取手形および売掛金の増加294百万円、商品および製品の増加72百万円です。

※2 固定資産は、前連結会計年度末に比べ2百万円減少し、12,987百万円となりました。これは、無形固定資産においてソフトウェアが増加したものの、減価償却の進行に伴い有形固定資産が減少したことや、投資その他の資産においてその他に含まれる保険積立金が減少したためです。

(単位:百万円)

科 目	前連結	当第2四半期
	会計年度	連結会計期間
	2021年3月31日現在	2021年9月30日現在
(負債の部)		
流動負債	8,945	9,934
支払手形及び買掛金	2,755	3,320
短期借入金	3,838	4,591
リース債務	97	123
未払法人税等	221	110
賞与引当金	352	379
役員賞与引当金	42	26
ポイント引当金	62	34
契約負債	—	132
その他	1,576	1,215
固定負債	1,572	1,282
長期借入金	1,141	812
長期未払金	130	96
リース債務	215	290
資産除去債務	53	53
退職給付に係る負債	14	15
繰延税金負債	15	11
その他	1	1
負債合計	10,517	11,217
(純資産の部)		
株主資本	12,929	12,847
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	10,793	10,710
自己株式	△ 64	△ 64
その他の包括利益累計額	298	407
その他有価証券評価差額金	145	139
繰延ヘッジ損益	12	11
為替換算調整勘定	140	257
純資産合計	13,228	13,254
負債純資産合計	23,745	24,472

※3 流動負債は、前連結会計年度末に比べ989百万円増加し、9,934百万円となりました。主な増加要因は、短期借入金の増加752百万円、支払手形および買掛金の増加565百万円、その他に含まれる未払金の減少177百万円、未払法人税等の減少111百万円です。

■第2四半期 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期	当第2四半期
	連結累計期間	連結累計期間
	2020年4月1日～ 2020年9月30日	2021年4月1日～ 2021年9月30日
売上高	20,238	21,667
売上原価	14,902	16,470
売上総利益	5,336	5,196
販売費及び一般管理費	5,356	5,164
営業利益又は営業損失(△)	△ 20	31
営業外収益	87	118
営業外費用	71	22
経常利益又は経常損失(△)	△ 5	127
特別利益	15	20
特別損失	1	15
税金等調整前四半期純利益	9	132
法人税等	34	67
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△ 25	65
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 25	65

※4 固定負債は、前連結会計年度末に比べ290百万円減少し、1,282百万円となりました。主な増加要因は、リース債務の増加74百万円、約定返済による長期借入金の減少328百万円です。なお、当第2四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ424百万円増加し、5,403百万円となっております。

※5 当社主要原材料である鶏卵の価格が鳥インフルエンザの影響から大幅に上昇いたしました。売上の増加に加え、徹底的な諸経費抑制に努めた結果、営業利益は31百万円となりました。

※6 持分法による投資利益や為替差益などにより、経常利益は127百万円(前年同四半期は経常損失5百万円)となり、特別利益、特別損失、法人税等を計上した結果、最終的な親会社株主に帰属する四半期純利益は、65百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失25百万円)となりました。

※7 営業活動の結果、使用した資金は28百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純利益132百万円や、減価償却費518百万円などの資金獲得要因もありましたが、法人税等の支払額177百万円や売上債権・棚卸資産・仕入債務を合計した運転資本面での使用158百万円などの資金流出要因が上回ったためです。

※8 投資活動の結果、使用した資金は302百万円となりました。これは販売管理システムの再構築、生産設備の増強投資・メンテナンス投資などが主な内容となっております。なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきまして不透明な状態が続いていることから、当第2四半期連結累計期間におきましては投資を抑制しております。

※9 財務活動の結果、得られた資金は239百万円となりました。これは短期・長期借入金の借入による収入424百万円(純額)、配当金の支払額112百万円、リース債務返済による支出57百万円が主な内容となっております。

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

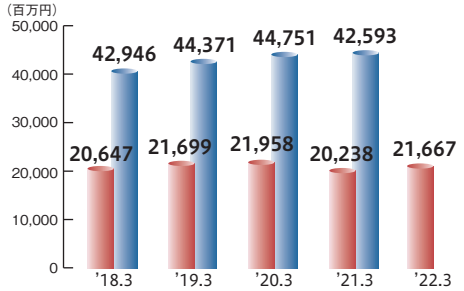
■第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

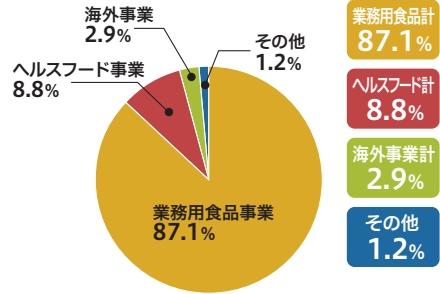
科 目	前第2四半期	当第2四半期
	連結累計期間	連結累計期間
	2020年4月1日～ 2020年9月30日	2021年4月1日～ 2021年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	618	△ 28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 107	△ 302
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 403	239
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	97	△ 61
現金及び現金同等物の期首残高	1,765	1,763
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,862	1,701

連結業績の推移

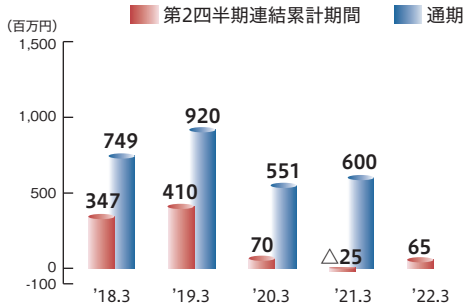
売上高



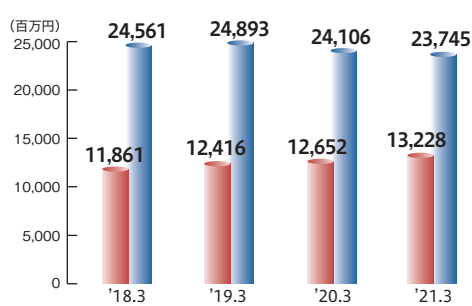
売上構成比('22年3月期 第2四半期)



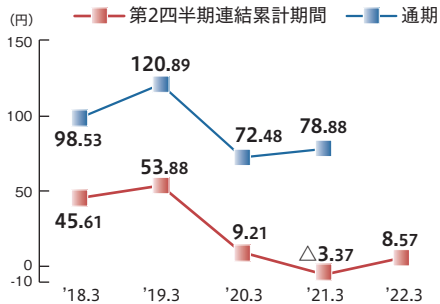
親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益(純損失△)



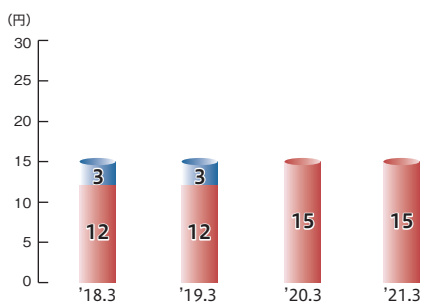
純資産・総資産



1株当たり当期(四半期)純利益(純損失△)



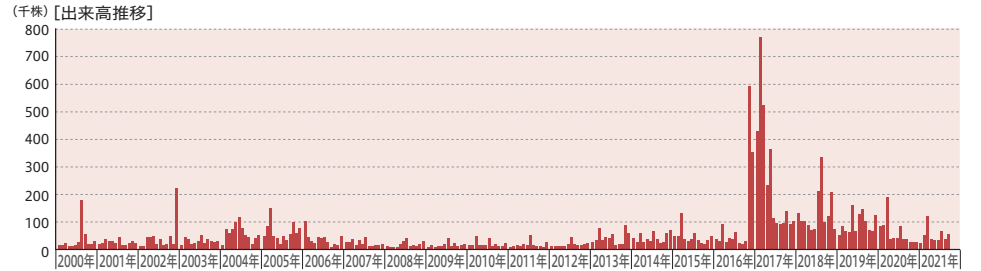
1株当たり配当金



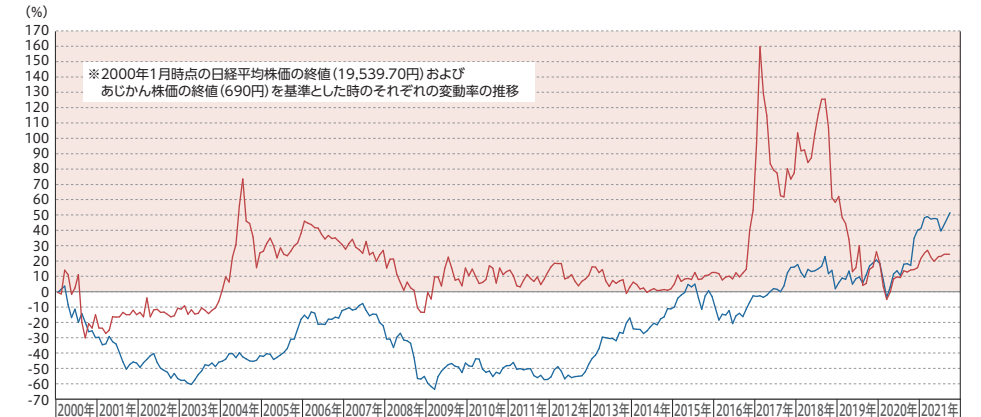
注) 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株価・出来高の推移 ※東証2部市場

証券コード：2907



日経平均株価とあじかん株価の推移の比較



IR Information

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 (定時株主総会) 3月31日
(期末配当) 3月31日
(中間配当) 9月30日(当期中間配当は未実施)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777(通話料無料)
- 上場証券取引所 東証2部
- 公告の方法 電子公告
(公告掲載URL) <https://www.ahjikan.co.jp/>
※やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載する方法で行います。

【ご注意】

1. 株主さまの住所変更など各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でも、お取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で、お支払いいたします。

会社概要

- 商号 株式会社あじかん (AHJIKAN CO.,LTD.)
設立年月日 1965年3月19日 (創業 1962年)
主要な事業内容 鶏卵加工製品・野菜加工製品・水産練製品・その他食品の製造、
販売、および卸売、農産物の生産、販売、ならびに運輸業



- 小誌についてのご意見は『膳』P.18の「読者からのお便り」までお寄せください。●